

〔吹奏楽で市民と交流〕

吉備国際大学、順正短期大学、順正高等看護専門学校との3校合同の吹奏楽部はそれぞれの頭文字を取ったKJ・J・アミュージング・プラス・カンパニー。毎年6月に県内8大学が集い演奏を披露する岡山県大学吹奏楽フェスティバルなどの演奏会に向けて練習に取り組んでいます。

一方で、地域に出掛け地元の皆さんに演奏を披露する活動も続いています。昨年10月には宇治町ふるさと物産まつりに出演。演奏するとともに、地元の皆さんと交流しました。

部員の吉備国際大学心理学部臨床心理学科2年・河上愛さんは「地域での演奏は、子どもからお年寄りまでと年齢層が広い。ため、アニメソングや童謡、演歌メドレーなどを選曲しています。皆さん喜ん



河上さん

でくださるので励みになります」といっています。

同部では地域で行われるイベントなどへ出演します。希望される場合は、学生課（TEL 07420）を通じて申し込んでください。

まちじゅうキャンパス構想
さらなる大学との連携

課題と取り組み

高梁学園の学生数と市住民基本台帳人口および全国の18歳人口 (人)

	平成12年	平成14年	平成16年	平成18年	平成20年
学生数	4,121	4,425	4,435	4,095	3,432
住民基本台帳人口	39,918	38,938	37,958	37,005	36,367
全国の18歳人口	151万	150万	141万	133万	124万

少子高齢化が進み、市民ニーズが多様化していく中で、本市のまちづくりを考えると、大学等の知的資源の役割はますます大きくなっていきます。

また、人口当たりの学生数の比率は高く、この点からも「大学のまち高梁市」が大きな特徴となっています。

しかし、わが国の18歳人口は平成4年の205万人をピークに減少に転じ、近年では約120万人で推移しています。平成26年には120万人を下回るまでの減少が予想されており、学生の都会志向とあいまって、学生確保のための大学間競争が激しくなっています。

高梁学園3校においても、平成15年度の4607人をピークに学生数の減少が続いています。

全国から本市へ学生が集まってくることは、社会的・文化的・経済的に非常に重要になっており、学生数の減少は地域活力の低下にもつながっていきます。

こうしたことから、大学との連携を一層強め、相互の協力によって人口減少・学生数減少の問題に対処していく必要があります。

市民支援組織

大学を取り巻く社会情勢の変化から、高梁市にやってくる学生を市民ぐるみでサポートしようと、高梁商工会議所の呼びかけで、昨年3月に「高梁学生応援協力会」を結成。入学時の歓迎アーチや横断幕の設置、学生便利手帳の作成と全学生への配布、留学生活の生活応援用品の募集と贈呈、学生との懇談会などの事業を展開しています。

新たな連携事業

このため、学生の確保をはじめ、学生にとって魅力ある環境の提供とその情報の発信、また大学等が持つ知的財産を生かしたまちづくりへの新たな事業の取り組みなどを推進し、地域の活性化を図っていきます。

市は今後、これまでの連携事業を市内各地域に拡大していくとともに、大学の知を生かした全市民的な新たな連携の展開を考えていきます。

留学生に聞く



多くの親切に感謝

吉備国際大学社会学部
ビジネスコミュニケーション学科4年
ラック サナ さん
(カンボジア出身)

将来カンボジアの経済発展に役に立つ勉強ができればと、高梁市にやってきて4年目になります。

こちらに来てみて、緑がいっぱいで特に川の水がきれいなのは驚きました。それに、人々もとても親切でよくあいさつしてくださいます。また、いろいろな経験もしました。和服を着て成人式にも出席し、松山踊りでは正式に踊り方を習って「踊りフレンズ」として参加しました。日本の文化、高梁の文化は素晴らしいですね。

留学生は、市民の皆さんともっと交流できたらと思っています。そのために、いろいろな催しの情報をいただければ助かります。

高梁市に来れたから、吉備国際大学で勉強できたから、私の人生にかけがえのない時を刻むことができました。皆さんには、大変お世話になり感謝しています。

大学では、経営学・社会学を学びました。卒業したらカンボジアに帰るつもりでいましたが、今はすぐに学んだことを生かせる仕事がありません。4月からは倉敷市内のホテルに就職します。社会人としても経験を積んでもっと自分を磨きたいと思っています。

高梁市は私にとって第2のふるさとです。

産学官連携

平成17年には、高梁学園・高梁商工会議所・高梁市で「連携協力包括協定」を締結しています。産業界、大学、行政の知的交流に基づく新しい価値の発見と、その具体的な取り組みのことで、市では産学官連携活動事業を促進し地域の活性化に結びつけるため「高梁市産学官連携基金」を創設し、福祉や教育文化、まちづくりや産業振興につながる連携活動事業に助成を行っています。

◆ グリーンツーリズム事業

基幹産業である農業を基本に、大学の知や学生の力を生かしながら農業体験や暮らし体験等を通じた「グリーンツーリズム事業」を実施し、農業振興と移住対策に取り組んでいきます。

◆ 農業アルバイト

市とびほく農協等関係機関の連携により、高齢化や担い手不足に悩む農家と学生のマッチングを行い、農作業を手伝う学生の「農業アルバイト」の実施を検討して

◆ 高齢者向けの教室の開催

高齢化の進む中、大学の知と施設等を生かした介護予防や認知症予防の教室を開くとともに、特色ある市の予防プログラムの開発にも取り組んでいきます。

◆ 地域資源を生かす取り組み

本市には恵まれた自然、備中松山城・吹屋ふるさと村などの名所旧跡や多くの伝統芸能があります。

これらは市民共有の貴重な財産や誇りであり、その保存とまちづくりへの活用に大学の知を生かしていこうと考えています。

◆ 留学生との交流事業

多文化交流における相互理解を深められるように、市民と留学生の交流を推進し、留学生が地域体験の中でボランティア活動等に参画できる仕組みづくりを推進していきます。

大学と連携したまちづくり

これまで大学は地域に貢献し、市も知的財産を生かしたまちづくりを推進してきました。今後さらに大学との連携を強くして、さまざまな場所と場面で市民と学生が交流を深め、互いに学び合いながら、地域課題を解決し活力あるまちづくりが進められるよう、努めていきます。

■ 問い合わせ 企画課定住促進係
(TEL) 021020202